

# きだこうへい市政報告 vol. 5

平成30年10月 福山市議会議員 喜田紘平 第五回市政報告

この度の西日本豪雨により被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様に、心よりお見舞いを申し上げますと共に、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

市議会議員就任から2年半が経過し、任期の半分以上が終わりました。残りの任期も、引き続き全力で取り組んでまいります。この四月から、常任委員会が新たに民生福祉委員会の所属となり、副委員長を仰せつかりました。民生福祉委員会では、子育て支援施策、児童・障害者・高齢者等の福祉施策、健康推進施策、市民病院やこども発達支援センターへの施策など、多くのことを専門的に議論できることになり、大きなやりがいを感じています。

そして、所属の地方創生調査特別委員会では、東京への一極集中という課題を解決し、人口減少・少子高齢化社会への対応施策などを議論してまいります。残りの任期も引き続き、皆様から変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



37歳

## 日々の活動

1月 福山の子ども達に、もっと福山城の歴史を知ってもらいたい！広島大学大学院三浦正幸教授から、福山城に関する講義を受けさせて頂きました。

1月 福山自動車道福山SAスマートICが開通！街の利便性の向上と、安心安全な街へと発展していくことを強く期待します。

2月 若者と政治も含めた社会との架け橋になるべく、大学生のための議員インターンシップを実施！将来、地域や社会を様々な立場で支えてくれるでしょう。「応援しますよ！」

3月 福山市立大学附属こども園が開園しました！福山市全体の乳幼児期の教育・保育への大きな貢献ができる施設であると期待しています。

4月 全国学力状況調査で、全国トップクラスを誇る秋田県への視察。自己肯定感や自尊感情を育む教育は、私が目指している教育観と一致。大変共感し、私自身とても大きな学びとなりました。

5月 福山市で子育てをしている女性の健康診断や検診の受診率の低さへの課題について、福山大学の杉原教授よりレクチャーを頂きました。どう改善すべきなのか等、今後に生かしていきます。

6月 通級指導教室へのタブレット端末導入の視察。言語学級の子どもは「自分の発音や口・舌の動きがすぐ見れるので、発音しやすくなった！」など、沢山のうれしい言葉が聞かれました。

7月 福山市の災害ボランティア活動へ参加。炎天下の中での土砂のかき出し作業でしたが、ボランティア活動に参加する事で、普段見えない課題が見え、将来の安全・防災の指針となりました。

～平成30年度 福山市議会本会議 6月定例会 きだこうへいによる一般質問～

掲載は一部抜粋となっていますので、6月の一般質問の全内容は私のホームページ内の「福山市議会一般質問」のページにて映像をぜひご覧ください。

## 1 若年者の地元企業就職への促進策について

Q 若者が「帰ってきたくなる街・福山」「住みたくなる街・福山」の実現を目指すべく、関西圏に就学している大学生と、地元企業の経営者や担当者が気軽に話し合え、地元企業からの参加希望も多く評価も高い「企業研究会」の更なる取り組み強化への提言と、今年度から始まった「移住支援事業費補助」の制度の拡充を提言しました。（一部抜粋）

A 企業研究会は、参加者の学生が備後圏域の企業に内定し、地元就職のきっかけになった。課題は参加者がまだまだ少ないとおり、今年度は首都圏でも開催し、多くの参加をいただけるよう、更に取り組みを強める。（一部抜粋）

## 3 障害のある子どもの福祉情報の役所内での共有について

Q 障害のある子どもの保護者にとって、ライステージにおいて関係する病院、学校、福祉施設などが変わることに、これまで受けた支援の内容や子どもの特徴などを初めから説明しなくてはならず、さらに、十分に伝わらない事で、支援に反映されないといった悩みがあり、子育てにおいて大きな負担になっていると数多くの声を聞いています。子どもの情報を役所内で情報共有する仕組みを作ることを提言しました。（一部抜粋）

A 障害のある子どもの支援に当たっては、障害の種別や程度などの基本的な情報のみならず、障害特性を部門横断的に把握することが重要である。関係部門の連携不足から行政の窓口が必ずしも保護者の期待に十分応えきれていないという課題があり、しっかりと受け止め、改善に努めていく。（一部抜粋）

## ふくやま市議会を見てみよう インターネット議会中継

福山市議会 映像配信 検索

電話 080-2889-4125  
Fax 084-993-4034  
mail kidakohei.fukuyama@gmail.com  
HP http://kidakohei.com

子ども達の未来の為に、動き続けます！

## 2 いじめ問題について

Q 今やいじめは非常に複雑化していて、SNSなどを使ったネットいじめも横行しています。私は、いじめられたことで自殺未遂を経験した子ども達のカウンセリングを幾例も担当したことがあります。苦しむ子ども達がいたときに、少しでも早く救われる体制の強化を心から願って、教育委員会の取り組みへの提言をしました。（一部抜粋）

A いじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものであるという基本方針を示している。いじめに迅速に対応するための体制づくりをし、取り組みを始めた。いじめSTOP集会やいじめ撲滅キャンペーンにも取り組んでいる。いじめの兆候にいち早く気付くと共に、学校全体で情報を共有し、状況に応じて学校と教育委員会が一体となり、児童生徒の立場に立った取り組みを継続していく。（一部抜粋）

## 4 歩きたばこに対する防止策について

Q たばこのポイ捨ては、街の景観を損なうだけでなく、ポイ捨てをされている量だけ、歩きたばこをしている人が多いとの表れであり、受動喫煙防止への観点からも、歩きたばこの火種による火傷等の事故への防止への観点からも、歩きたばこの禁止が必要であると提言しました。（一部抜粋）

A 市長より、「歩きたばこは、火傷の危険性やポイ捨てにも繋がることから、今後、条例を改正することを検討する」・・・という大変力強いご答弁をいただきました。（一部抜粋）

その後 その後、中国新聞もこのことを取り上げてくださいました。毎月、子ども達との清掃活動という

ボランティア活動を通して、子ども達やご参加いただいた大人の方々と共に、街の課題を発見しその課題を行政に提言をし、その課題が解決に向けて動き出したことに、また、それにより更にこの街が、特に子ども達にとって安心安全な街へ近づいていることに、大変嬉しく感じています。今後、早期に条例改正が進んでいくよう引き続き取り組んでまいります。



※次号からの郵送をご希望の方は、上記までご連絡下さい。



きだこうへい

検索